

4回接種して！ 子どもの日本脳炎ワクチン接種を 詳しく解説

ドクターズコンテンツシリーズ #57

はじめに

平成17～21年に日本脳炎ワクチンは、国の方針で予防接種が控えられていました。今初めて耳にする方、その時に諦めた方、ワクチンはもういらなと思った方など、今も情報の誤解や混乱がある状態です。

重要なのは、『日本脳炎ワクチン接種は20歳未満までに4回』ということ。

日本脳炎やワクチンについての正しい知識や情報を知らない、せっかくの定期接種時期を逃してしまい、子どもの命を危険にさらしてしまうことにもなります。



日本脳炎のウイルスとは？

蚊によって日本脳炎ウイルスに感染する病気のことを「日本脳炎」と呼んでいます。



日本脳炎ウイルスの症状と防御方法

主な症状

日本脳炎ウイルスはひとたび感染してしまうと高熱、頭痛、嘔吐などの症状に突然襲われ、意識障害や麻痺といった神経系の障害を引き起こす可能性があります。急性脳炎になる可能性もあるため、結果として半数以上の人に重度の後遺症が残ったり、死亡してしまったりするケースがあります(致死率は20～40%前後)。

防御方法

ウイルスに対しては、免疫力を高めることぐらいしか防御方法がなく、ワクチン接種をしてウイルスに抵抗する体にする必要があります。これが予防接種なのです。



受診の目安

頭痛や39～40℃以上の発熱が2～3日で始まり、食欲不振、吐き気、嘔吐、めまいなどの症状を次々発症することになります。子どもでは、腹痛や下痢になることも多くあります。

次の段階では、意識障害、光線過敏、筋肉の強直、興奮、ふるえ、麻痺、けいれんなどが現れ、急性脳炎症状を起こしていることとなります。ここまでになると致死率は20～40%前後で、たとえ回復したとしても約50%に後遺症が残るといわれます。特に子どもは大人より死亡リスクや重度な障害になる確率が高いのです。

蚊に刺された後に頭痛や高熱が急に出たなら、急いで病院を受診してください。

ワクチン接種の時期・回数

日本脳炎ワクチンは、『不活化ワクチンで、定期接種』ワクチンです。安全性を高めるため、厚生労働省は「4回接種」を推奨しています。



- 1期接種 初回接種は、3歳～4歳の期間に6～28日までの間隔をおいて2回、追加接種は、2回目の接種を行ってから概ね1年を経過した時期に1回の接種
※第1期は生後6か月から接種できます。かかりつけの小児科医と相談のうえ、お住まいの地域なども考慮のうえ接種してください。
- 2期接種 9歳～12歳までに1回の接種

日本脳炎ワクチン接種を推奨していなかった時期があった！

日本脳炎の予防接種の歴史の中では、1997(平成9年)年にADEM(Acute disseminated encephalomyelitis アデム：急性散在性脳脊髄炎)という事例が報告されました。そのため、日本脳炎の予防接種が差し控えられた時期(2005(平成17)年～2009(平成21)年)がありました。

推奨していなかった時期の未接種分は定期接種が可能

2005(平成17)年～2009(平成21)年の日本脳炎予防接種対象者【1995(平成7)年4月2日～2007(平成19)年4月1日生まれで、20歳未満】は、『特例対象者として公費で定期接種』ができます。また、2007(平成19)年4月2日～2009(平成21)年生まれで、残りの未接種回数があり、定期予防接種の対象者であれば『公費で定期接種』が可能です。

かかりつけの医師、各医療機関窓口や自治体保健所などに問い合わせをしましょう。

この他にも...

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- 日本脳炎ウイルスを媒介する感染源と感染エリア
- 日本脳炎ワクチンは、どんな種類のワクチン？
など掲載中！

アイチケット広場



<https://park.paa.jp/>